vinetur

米ホテルのRevPAR、11月14日までの週に12.9%上昇

稼働率は64.5%、平均客室単価は164.85ドルに上昇。航空便の乱れで空港周辺のホテルは一時的な恩恵を受けた

2026年11月20日（金）



CoStarが木曜日に公表したデータによると、11月8日から14日までの週、米国のホテルでは客室収入が前年同期比で大きく増加した。稼働率と客室料金の上昇が、業界の主要な業績指標の一つを押し上げた。

CoStarによると、販売可能客室1室当たり売上高（RevPAR）は週平均106.37ドルとなり、2025年の同じ週に比べて12.9%増加した。RevPARは、稼働率と平均客室単価を一つの指標にまとめ、ホテルが販売可能な客室からどれだけの収入を得ているかを示すため、注目度の高い指標となっている。

上昇は、指標を構成する両方の要素が改善したことによる。稼働率は64.5%に達し、前年同期

を6.0％上回った。販売された客室の平均価格を示す平均客室単価は6.5％上昇し、164.85ドルとなった。

この数値は米国のホテル市場全体を対象とし、稼働率、平均客室単価、RevPARの週次集計値を反映している。CoStarは金額を名目米ドルで公表した。

データは、2025年の同時期と比べてホテルの業績が広範に改善したことを示している。稼働率の上昇は、より多くの客室が埋まったことを示唆する一方、平均客室単価の上昇は、ホテルが客室をより高い価格で販売できたことを示す。両者がそろって上昇した結果、RevPARはどちらか一方の上昇だけの場合より大きく伸びた。

週次の伸びの一部は、市場の特定セグメントで生じた特殊な需要によるものだった。CoStarによると、空港周辺のホテルでは11月13日にRevPARが前年同日比38.4％、14日には29.2％上昇した。同社は、航空便の乱れがこうした伸びにつながったとしている。便の乱れにより、足止めされた旅行者が急きょ近隣の客室を予約することがある。

この点が重要なのは、週内に見られた特に大きな伸びの一部が、旅行動向の広範かつ持続的な変化ではなく、短期的な出来事の影響を受けたことを示しているためだ。それでも、全米の数値は、大規模な市場全体で需要が強まり、価格も上昇したことを示した。

ホテルの所有者や運営会社にとって、RevPARは事業環境を把握するための主要な指標の一つだ。施設がどの程度客室を埋め、保有する客室在庫からどれだけの収入を得ているかを反映するためである。稼働率と料金が同時に上昇する場合、通常はどちらか一方だけに支えられた成長よりも、市場環境が健全であることを示す。

CoStarは今回の結果を、11月14日までの期間を対象とした米国ホテルの週次業績データと説明した。報告書は11月19日に公表された。CoStarはホスピタリティ業界データの主要プロバイダーであり、同社の週次更新は、旅行需要や価格動向を把握するためにホテル会社、投資家、アナリストに広く利用されている。

11月8日から14日までの結果は、米国のホテル市場が前年より強い収入の勢いを保って11月中旬を迎えたことを示唆している。航空便の乱れの影響を受けた空港周辺のホテルへの上乗せ効果は続かない可能性があるが、週全体の数値は、客室の稼働率と価格の両方が上昇し、ホテルの収入が増えたことを示した。